



新たな女子教育の地平へ

学校法人

宮城学院

Since 1886



つながりを大切にする 宮城学院の教育の特長

女子教育

親しい仲間がいます。美しい自然があります。豊かな感性と想像力、知識と知恵で人間性を磨き育てます。宮城学院のキャンパスには、女子教育の清い空気があります。



中高大一貫教育

人間形成において重要な中・高・大の期間、同じ理念のもと、同一キャンパスで先輩の姿を見ながら学びます。各種推薦など宮城学院独自の連携教育のノウハウがあります。

グローバル教育

日本近代化の歴史を共有している宮城学院は、多くの海外校と留学協定を結び、外国語や異文化体験の学びによってあらためて日本人であることを考え、国際理解を深めます。



キリスト教教育

鐘の音と共に讃美歌が流れるキャンパスで聖書の言葉に親しみます。神を畏れ隣人を愛する知性は、人間性を深め、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育みます。



変わらぬ建学の精神を礎に

建学の精神

福音主義キリスト教に基づいて学校教育を行い、神を畏れ敬い、自由かつ謙虚に心理を探索し、隣人愛に立ってすべての人の人格を尊重し、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育成すること

スクール・モットー

～神を畏れ、隣人を愛する～

箴言9:10 マルコ12:31

学院長あいさつ

変わらぬ建学の精神を礎に新たな女子教育の地平へ

「天にみ栄え地に平和」は、宮城学院校歌（土井晩翠作詞）の冒頭句です。これは、天の大軍の賛美「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」と共鳴し、建学の精神「神を畏れ敬い、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性」に通底し、宮城学院の教育を示しています。キャンパスの建物群は、たんに雨風をしのいだり、ものを作ったり売買したりするために奉仕するものでなく、必要性や有効性とは異なるもっと高貴なもの、すなわち、建学の目的を遂行するために捧げられたものです。桜ヶ丘キャンパスは、約20万平米の丘陵地に礼拝堂を中心として15棟の施設が、文化と歴史のしるしである「帽子の像」「ピアノ池」「建学の泉」とともに配置されています。統一された外壁のレンガ色は、宮城学院のスクールカラーや合衆国ドイツ改革派教会のカラーの臙脂色を想起させます。キャンパスに保持されている鳥や植物は、園児や生徒や学生の学びを四季折々豊かにしてくれる自然の恵みです。校章の「聖書と鳩と宮城野萩」は桜ヶ丘キャンパスをも表象していると言えます。1886年、開国や高札撤廃など近代化の道をあゆみ始めた日本に向けて合衆国ドイツ改革派教会は、宣教師エリザベス・R・プールボー（32歳）とメアリー・B・オールド（23歳）を派遣しました。二人は、前年に派遣されていた宣教師 W・E・ホーイ（28歳）や横浜公会草創期の基督者押川方義（36歳）とともに仙台の中心地に女学校を創設したのです。宮城学院創立の背後には、人生をかけて献身した二人の女性宣教師の働きと彼らを支えた合衆国ドイツ改革派教会の祈りと援助があったのです。この年は、仙台神学校（男子校）や宮城英学校（男子校）の開設など宮城県教育史においても画期的な年になりました。宮城女学校の創設により女性に洋学の学びと社会での活躍の道が開けたのです。明治維新以降の歴史を経て、今日、宮城学院は桜ヶ丘に学窓を構えています。自然の中で育つ「森のこども園」のお友だち、「英語教育」「音楽教育」「国際理解教育」の三本柱を掲げる中学高等学校に学ぶ生徒たち、現代ビジネス学部・教育学部・生活科学部・学芸学部の分野で知識と技能を修め次に備える学生たち。宮城学院は、一通過点ではなく、生涯に持続可能な価値を見出す学舎です。



学院長
佐々木 哲夫



最初の校舎(1889年)



宮城女学校初代校長
E・R・プールボー
Elizabeth R. Poorbaugh



第一回卒業生(1893年)



宮城学院女子大学附属
認定こども園
森のこども園

感動したぶんだけ、大きくなれる。

1956年に開園した附属幼稚園から2016年幼保連携型認定こども園「森のこども園」となり、現代社会が必要とする保育ニーズに応える形で新たなスタートを切りました。恵まれた自然環境に包まれた園舎と、固定遊具を置かないアウトドアの遊びを中心とした保育が日々展開されています。

■ 教育の特長

キリスト教主義



聖書の教えに基づいた人間教育を理念とする、宮城学院女子大学附属の認定こども園です。イースター、収穫感謝祭、クリスマス礼拝などの行事を通して乳幼児の調和のとれた人間形成を培うことを目的とします。

認定こども園



幼稚園・保育園の機能を有し、乳児(生後4か月～)から就学前までの一貫した教育・保育を展開しています。7:00～19:00までの保育に加え土曜保育も実施。地域に密着した子育て支援、一時預かり保育、児童クラブなど子育て支援事業も行っています。

3つの心を育む



日々の発見を通して、「?」:不思議に思う心、「!」:感動する心、「♡」:思いやりの心の3つの心を育む保育です。食育にも力を入れ、地場产品中心のおいしい給食、手作りおやつを提供、野外炊飯場を使った煮炊きなど、食べるのが楽しくなる活動が実施されています。

■ 園舎の特長

園舎はプリツカー賞等を受賞した世界的な建築家、伊東豊雄氏によって設計されました。各保育室や遊戯室(みんなのひろば)は、子ども達を柔らかく包み込む屋根に覆われ、風がさわやかに吹き抜ける心地よい空間となっています。それはあたかも麦わら帽子に覆われた様子を連想させるのです。

❖ 宮城学院女子大学との繋がり

宮城学院女子大学教育学部教育学科と連携した幼児教育を行っています。長年、北欧のアウトドア保育を研究し、「乳幼児教育」と「自然体験」の両方の重要性を考え、森の遊びを通して学びの芽生えを育む保育を根幹に置いています。また、大学の教育実習や研究の場としての連携に加え、学生が就労体験をする「ワークスタディ制度」を活用し、こども園の保育補助、児童クラブの補助、給食の調理補助などで活躍しています。





中学校
高等学校

宮城学院中学校・高等学校では、福音主義キリスト教に基づき、自分らしさを存分に発揮しながら挑戦し続けてゆく、「知恵と力と愛をたたえた女性」を育成することを大切にしています。そのために、生徒が「意欲的・能動的」に学習し、そこから主体的に考える力・問題解決していく力を身につけることができるよう、力を注ぎます。

■ 教育の特長

6年間の中高一貫教育によって学力をじっくりと育むことができます。また、生徒みんなでハレルヤコーラスを合唱するクリスマス礼拝等、キリスト教に触れる教育が特長です。ネイティブ教員とのコミュニケーションをベースに行われる英語教育、弦楽を実際に演奏する音楽教育等、生徒が“実践”することに重きを置いています。

宮城学院中学校

I

英語教育
English Education



本校は1886年の創立以来、多くのアメリカ人宣教師が生徒に英語や聖書を教えてきました。そのため、話す力をつける英語教育には長い歴史があります。グローバル化が進む今、本校では「本当に使える英語力の習得」を目指します。在校生には、英検準2級合格者も多数おり、なかには2級を取得して、準1級に合格した生徒もいます。

II

音楽教育
Music Education



本校では、音楽教育を大切にしています。キリスト教学校として礼拝を行い、日々讃美歌に親しんでいます。歌や弦楽の演奏を通じて豊かな感受性と表現力を体得。さらに実技の他に楽譜を読む力を養う楽典も学び、音楽の基礎的な理論を身につけていきます。

III

探求型国際教育
Inquiry-based International Studies



戦争、貧困、環境破壊、先端テクノロジーなど、地球上に存在する様々な課題解決のためには、グローバルな視点を持つことが必要とされます。本校では、キリスト教教育と質の高い英語教育を土台に、世界の最先端の情報にふれる学びで国際感覚を身につけ、将来、生徒一人ひとりがある課題解決に向けて行動できる力を養います。

❖ 宮城学院高等学校との繋がり(中高一貫教育)

宮城学院は、個性と知性を育む中高一貫教育を行っています。音楽教育や探究活動は中高を通して実施するほか、中高合同で行う様々な学校行事を通して、自立への一歩を踏み出し、大きく世界が広がる中学3年間。自分の可能性に気づいたその先には、輝かしい未来に向けて自分らしさを深める高校生活が待っています。



宮城学院高等学校

アドミッションポリシー(求める生徒像)

- 宮城学院の建学の精神と教育内容を理解する生徒。
- 確かな学力と豊かな知的好奇心を持ち、多様な学びに積極的に臨んでいくことができる生徒。
- 自ら考え行動し、他をリードしつつ多様性を尊重し、協働できる生徒。

カリキュラムポリシー(教育の方針)

- キリスト教教育を基本として、英語教育・音楽教育・国際理解教育の充実と確かな学力、問題と課題を自ら発見し解決するための思考力、判断力、表現力を身につけることを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。
- 毎朝の礼拝を大切に、キリスト教を基本とした教育を行い、平和を考える隣人愛の心を育みます。
 - 6年一貫教育のカリキュラムを編成し、確かな学力が身につく指導を行います。
 - 世界に目を向けたグローバルリーダーとしての資質を養うため、国際理解教育に積極的に取り組み、高い語学力とグローバルな感性を養うための様々な教育プログラムを提供します。
 - これからの国際社会を担う人材を育成するために各教科が連携し、教育活動を展開します。
 - 生徒が主体的に課題を発見し解決する意欲と能力を育むため、探究型の教育を行います。
 - 学校行事や課外活動を通してリーダーシップとフォローシップを身につけ、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神を身につけます。

グラデュエーションポリシー(卒業時に身につける力・卒業認定)

- 幅広い知識と高い学力、課題解決力を身につけ、グローバルな感性を持ち、主体的に自ら未来を切り拓く力と豊かな人間性を備えた人材の輩出を目指します。
- 真の平和を考え、人の痛みに共感できる感性を持ち備えること。
 - 多様性を尊重し、他者と協働して学び続けることができること。
 - 問題・課題を自ら発見し、解決する知性を持つこと。
 - グローバルな感性を磨き、世界とつながるリーダーであること。

高校時代から大学の学びに触れ、中・高・大の10か年一貫教育を実現

本校では、総合進学コースを中心に、高校では得られない学びや体験ができる「高大連携」を積極的に行います。宮城学院女子大学のキャンパスを舞台に、高大連携授業などを受けることで将来の進路が明確に。学習・進学意欲も高まります。

自立学習をサポートする勉強の専門店街 Study Mall

スタディモールは、自習や担当講師による個別指導のほか、様々な講座を受講できる学習プログラムです。まるで学習塾や予備校に通うように、学内でより一層学力を向上させていくことができます。



❖ 宮城学院女子大学との繋がり(高大連携)

毎週90分、実際に大学に行き高校生向けにアレンジされた大学の講義を受講します。通年で自分の志望や興味に応じて様々な授業を受けることができます。宮城学院女子大学に進学した場合、単位として認定される講義もあります。また、宮城学院女子大学への内部推薦枠を持っており、年3回の推薦機会がある等、受験における連携も行われています。



愛のある知性を。

宮城学院女子大学は2021年度から、教育の理想を「愛のある知性を。」という言葉で言い表しています。大学でさまざまなことを学ぶのは、自分の限界に挑戦し、そのことを通して自分を、そして自分の愛する人々を豊かにするためです。宮城学院は創立以来、「愛のある知性を」求め続ける女性たちを育んできました。

■ 教育の特長

「現代ビジネス学部」「教育学部」「生活科学部」「学芸学部」という4学部9学科の構成から、学生の多様な夢に対応した学びの場があることが最も大きな特長です。また、外部団体・企業との連携プロジェクトや、さまざまな海外の大学との留学協定等、キャンパスを飛び出し、社会・世界に触れて学ぶ機会が用意されています。



大学

現代ビジネス学部

現代ビジネス学科

地域の創造と課題解決にみちびく女性リーダーを育成

ビジネスを円滑に進め成功に導くために、必要な知識を学び、能力を育てます。女性に特化したキャリア教育や就職活動などを教職員一丸となって支援し、ビジネス・パーソンとしての巣立ちを後押しします。



生活科学部

食品栄養学科

管理栄養士や栄養教諭など食と健康のスペシャリストを養成

栄養や食育への注目が集まる現在、「食」と「健康」に対する社会のニーズは、ますます高まっています。「食と健康のスペシャリスト」とも言うべき管理栄養士や栄養教諭などを養成します。



生活文化デザイン学科

「環境・文化・社会」の視点から次世代のライフスタイルをデザイン

「環境」「文化」「社会」の視点から生活全般を総合的にとらえ、次世代社会に求められる生活をデザイン＝提案する力を育てます。実績ある家庭科教員養成と、人間への深い理解を持つ建築士の育成が特色です。



❖ 社会とつながる、広がる学び

長年の伝統により培われた、外部企業・団体とのネットワークにより、連携プロジェクト等さまざまな取り組みを行っています。自主的・実践的な社会貢献の場として学部学科を超えた学生同志、学生と教職員、大学と地域社会がつながり、協働して活動を創っています。



教育学部

教育学科 幼児教育専攻

乳幼児の発達を総合的に理解し支援できるスペシャリストを養成

さまざまな分野の学習で得た知識を用いて、子ども一人ひとりの発達を支え、教育や社会が抱える問題解決に取り組むことができる資質と専門性、目的意識を持って社会や人に関わることができるスキル、論理的な思考力を養います。



教育学科 児童教育専攻

子どもに対する深い理解と高い専門性を備えた教師の育成

幅広い教養と高い専門性を身につけ、子どもへの愛情と教育者の自覚を持った教員、常に研究と修養に努め、周囲の信頼と期待に応えられる教員、子どもの可能性を引き出し、伸ばせる実践的指導力を持った教員を育成します。



教育学科 健康教育専攻

養護・保健体育の教諭など健康教育の専門家を育てる

子どもの発育・発達を支援でき、幅広い「教養」と「専門」を学んで子どもや保護者、社会のニーズに応え、子どもの健康課題に対する状況を理解し、理論的かつ柔軟な支援ができる「養護」「体育」「健康」の専門家を育てます。



学芸学部

日本文学科

「日本のことばと文化」を総合的に学ぶ

文学・文化・語学・外国人向けの日本語教育等、主要4分野から「日本のことばと文化」を探究する学科です。日本語と日本文学の豊かな歴史を受け継ぎ、多種多様な表現方法を学ぶことによって、「魔法使い」ならぬ、すぐれた「日本語使い」の育成を目指しています。



英文学科

英語で情報を収集し批判的に分析し発信できるようなEnglish userを育てる

英語の継続的段階的学習で“English learner”から“English user”へ。専門コースで、知識、分析力、思考力を深め、卒業研究の個別指導を通して、学生個々の力を引き出していきます。



人間文化学科

世界と日本の歴史と文化を知り現代社会を生き抜く力を養う

日本史・西洋史・芸術史という歴史学の主要な領域と、アジア・ヨーロッパの文化や社会を多角的に学ぶ地域研究を修めることができます。身近な郷土史から地球上に暮らす多様な人々の習慣・思想までをカバーし、人間が広く世界で育んできた歴史や文化・社会について総合的な教養を身につけることを目的としています。



心理行動科学科

人の行動の心理を追究し、社会に貢献する

人の心の動きや行動を科学的に測定し、統計的に分析し、論理的に解釈する心理学の学びを通して、人間の行動や心理に対する理解を深め、ものを客観的に考える力、的確に表現する力の獲得を目指します。



音楽科

音を楽しみ、学び、つくりながら“人間力”を学ぶ

アットホームな雰囲気の中、個々の音楽経験に応じた丁寧な指導を行います。さまざまな発表の機会を通して、確かな“人間力”を磨きます。



大学院

人文科学研究科



英語・英米文学専攻

英語学・英米文学・英米文化の3領域を学び、21世紀を生き抜く確実な英語力を身につける

日本語・日本文学専攻

日本の文化について、国内外に発信できる専門家の育成・養成

人間文化学専攻

人間の営みからそのあり方を理解し、新たな文化を創造する人材を育成

生活文化デザイン学専攻

“人の暮らし”を追究する2領域。修了後は専門職として活躍

健康栄養学研究科



健康栄養学専攻

食生活に関連する健康課題の解決に向けた、生活者および教育者の視点での研究

宮城学院とパイプオルガン



旧東三番丁キャンパスの大講堂内に設置されていたパイプオルガン

キリスト教の礼拝音楽において、欠かすことのできない存在のパイプオルガン。宮城学院礼拝堂内のパイプオルガンは1970年、旧東三番丁キャンパス内の大講堂に設置され、その後1980年のキャンパス移転に伴い、現在の場所へ移設されました。設置当時、まだまだ貴重だったパイプオルガン。その荘厳な音色を聴こうと、大講堂には多くの市民が詰めかけました。また宗教的側面に加えて、教育的側面も併せ持っていて、学生にとっては貴重な音楽的素養のひとつとして、卒業後の教育・演奏活動にも活かされています。教会オルガニストとして活躍する卒業生をはじめ、たくさんの学生たちがこのオルガンから多くを学び、巣立っていきました。



中高講堂

キャンパス移転直後、講堂にパイプオルガンがないことを残念に思った父母の会が、懸命な募金活動を行い、1982年に設置。カナダのカサヴァン・フレール社製で、演奏台、オルガン本体は可動式。毎朝の礼拝で讃美歌が演奏されるなど、中高生に親しまれています。



ハンセン記念ホール (音楽館)

スイスのサン・マルタン社製で、伝統的なフランスオルガンの様式を取り入れています。音楽科の礎を築いた宣教師ケイト・I・ハンセン先生の遺族によって設立された「ハンセン財団」からの寄付などにより、1985年に設置されました。

アクション:トラッカーアクション
チェスト:スライディング チェスト
カプラー:II/I I/Ped. II/Ped.
自由コンビネーション 10組
ストップ数 30
総パイプ数:1,954本



宮城学院のあゆみ

草創期

19世紀、アジアへのキリスト教伝道活動が活発化する中で来日した合衆国改革派教会の宣教師ウィリアム・E・ホーイと押川方義。2人の出会いから宮城学院の歴史は始まりました。彼らの手により、1886年9月18日に創立された宮城学院の前身である「宮城女学校」は、初代校長エリザベス・R・プールボーの下、小さな仮校舎でたった10名の生徒で最初の授業をスタートしました。その後、多くの方々の協力により、最初の校舎が完成。さらに専門科として「聖書専攻科」が設置される等、宮城学院の教育の礎はこの時期に創られました。

- 1870年 - ヘボン施療所で女子教育が始まる(現 フェリス女学院大学)
- 1874年 - 女子師範学校開校(現 お茶の水女子大学)
- 1875年 - 神戸ホーム開校(現 神戸女学院大学)
- 1876年 - スタークウェザー女子塾開校(現 同志社女子大学)
- 1880年 - プリテン女学校開校(現 横浜英和女学院)
- 1886年 - ウィリアム・E・ホーイと、押川方義牧師ら日本人キリスト者によって「宮城女学校」創立(9月18日) 初代校長にエリザベス・R・プールボーが就任
東二番丁51番地 田辺繁久県会議員別邸で、生徒10名で最初の授業を行う(9月24日)
- 1889年 - 最初の校舎が完成し、仮校舎より移転
- 1890年 - 学則を変更し、予科3年、本科4年とする
- 1893年 - 第一回卒業式(卒業生4名) 同窓会発足
- 1899年 - 私立学校令公布 外国人校主制に移行
- 1900年 - 本科・予科に加えて、初の専攻科として 聖書専攻科を設置
女子英学塾開校(現 津田塾大学)
東京女医学校開校(現 東京女子医科大学)
- 1901年 - 女子美術学校開校(現 女子美術大学)
日本女子大学開校(現 日本女子大学)
- 1902年 - 火事により校舎全焼 片平丁旧知事官舎に移転



初代校長 押川方義

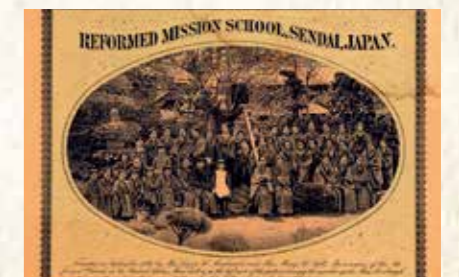
合衆国改革派教会宣教師 ウィリアム・E・ホーイ



最初の校舎(1889年)



第一回卒業生(1893年)



初期の宮城女学校をアメリカの教会に紹介した写真

成長期

東三番丁キャンパス

1904年の第一校舎完成と同時に、東三番丁にキャンパス移転。大講堂をはじめ、いくつかの建物が献堂されました。1941年からのアジア・太平洋戦争中は、アメリカ人教員全員が辞任。さらに、1945年の仙台空襲で校舎の多くを焼失しますが、ゼロからの再スタートを切ります。一方で、1910年に校旗・校章が設定され、戦後、中学校・高等学校・大学・短期大学・附属幼稚園が設置され、現在の総合学院となりました。

- 1904年 第一校舎献堂式
- 1910年 校旗・校章制定
- 1911年 高等女学校令により、女学校となる
- 1912年 家政専攻科設置
- 1913年 英文専攻科設置
- 1914年 学校憲法制定 理事会組織の発足
- 1916年 音楽専攻科及び聖書専攻科設置
- 1918年 第二校舎献堂式
- 1936年 創立50周年記念式典
- 1937年 大講堂献堂
- 1941年 「財団法人宮城女学校」設立許可
アジア・太平洋戦争に突入 アメリカ人教員辞任
- 1943年 宮城女学校を廃止し、宮城高等女学校を設置
- 1945年 仙台空襲で、大講堂と第二校舎を除いて焼失
- 1947年 宮城学院中学校設置
- 1948年 宮城学院高等学校設置
- 1949年 宮城学院女子大学設置認可
(学芸学部 英文学科・音楽科でスタート)
- 1950年 宮城学院女子短期大学設置認可
- 1951年 「学校法人宮城学院」設立認可
- 1953年 大学本館献堂
- 1956年 宮城学院女子短期大学附属幼稚園設置認可
- 1964年 大学学芸学部 に日本文学科を設置
- 1978年 「桜ヶ丘校地」への総合移転建設工事起工式



第一校舎 全景(1904年) 第一校舎 講堂内部(1904年)



宮城女学校校旗制定(1910年)



大講堂 献堂(1937年) 大学本館 献堂(1953年)



東三番丁キャンパス(1965年)

発展期

桜ヶ丘キャンパス

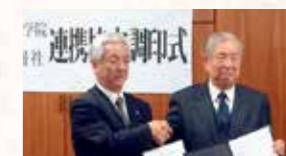
1980年に仙台市青葉区桜ヶ丘にキャンパスを移転。1986年には100周年、2006年には120周年と着実にその歴史を刻んでいきます。その間、大学院設置・学科増加等、大学としての充実も図られました。2011年の東日本大震災では、校舎損傷等多くの被害が出ましたが、止まることなく歩み続け、創立130周年を迎えた2016年には、大学の大幅な学部学科改組や、認定こども園「森のこども園」の開園等、建学の精神を礎に、ますますの発展を遂げています。

- 1980年 東三番丁から桜ヶ丘キャンパスへ移転
- 1981年 同窓会第1回「ホームカミングデー」
- 1982年 中高講堂のパイプオルガン奉献式
- 1983年 建学の泉(旧六角池)を東三番丁から移築
- 1985年 ハンセン記念ホールのパイプオルガン奉献式
- 1986年 創立100周年記念式典
(佐藤忠良作彫像「帽子の像」除幕式)
- 1991年 宮城学院女子大学ハイデルバーグ大学と姉妹校協定調印式
- 1994年 キリスト教センター開所
- 1995年 大学学芸学部 に人間文化学科を設置
「宮城学院女子大学大学院」開学記念礼拝及び入学式
- 1996年 大学・短大第2講義館増築献堂式
- 1999年 中高ランデイス館定礎式・献堂式
- 2000年 第2家政館新築並びに第2講義館増築献堂式
大学学芸学部 に食品栄養学科・生活文化学科・
発達臨床学科・国際文化学科を設置
- 2001年 スクール・モットー「神を畏れ、隣人を愛する」制定
宮城学院女子短期大学廃止認可申請
- 2006年 創立120周年記念式典
- 2007年 大学学芸学部 に心理行動科学科・児童教育学科を設置
- 2011年 東日本大震災発生
- 2014年 河北新報社、仙台市と連携協定を締結
- 2015年 仙台フィルハーモニー管弦楽団と連携協定を締結
- 2016年 大学1学部10学科から4学部9学科へ学部・学科改組
2016年4月からの学部・学科
・現代ビジネス学部[現代ビジネス学科]
・教育学部[教育学科]
・生活科学部[食品栄養学科・生活文化デザイン学科]
・学芸学部[日本文学科・英文学科・人間文化学科・心理行動科学科・音楽科]
宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」開園
創立130周年記念式典
富谷町と連携協定を締結
- 2019年 宮城学院女子大学開学70周年



「帽子の像」(1986年)

100周年記念ミュージカル
「ハート・バイ・ハート・ツアー」
(1986年)



河北新報社と
連携協定の締結
(2014年)



大学
学部学科改組
記者会見(2015年)



創立130周年
記念音楽会
(2016年)



認定こども園
「森のこども園」
(2016年)



桜ヶ丘キャンパス(2016年)

キャンパス紹介



A

帽子の像
創立100周年を記念して設置された彫刻家 佐藤忠良(宮城県出身)の作品。



B

中央芝生広場
キャンパスの中央に位置している「憩いの場」。この広場で、昼休みにお弁当を広げる学生も。



E

ハンセン記念ホール
音楽館内にあるホール。毎月コンサートや発表会など、多数開催されている。



F

ピアノ池
中央芝生広場に隣接するこの池は、「グランドピアノ」がモチーフ。

緑豊かな桜ヶ丘キャンパスには、季節の花々が敷地内を華麗に彩ります。建物はレンガ造りで統一されており、生命力にあふれた自然の「緑」とあたたかさに満ちたレンガの「赤茶」とが、見事なコントラストを醸し出しています。

キャンパスのほぼ中央に位置する礼拝堂。ほかにも、六角形の池と噴水からなる「建学の泉」、創立100周年を記念して設置された「帽子の像」など、宮城学院を象徴するものが、キャンパス内には点在しています。



C

礼拝堂(クリスマスイルミネーション)
キャンパスのほぼ中央に位置し、毎年12月にクリスマスを祝してライトアップされる。



D

ピエリス(学生食堂)
白を基調とした清潔感あふれる店内、インテリアはモンシロチョウをイメージ。



G

建学の泉
帽子の像と並ぶ本学院のシンボル。六角形の池と噴水は、東三番丁キャンパスから移設。



H

大学図書館
3階建ての建物で、蔵書数は約37万冊。



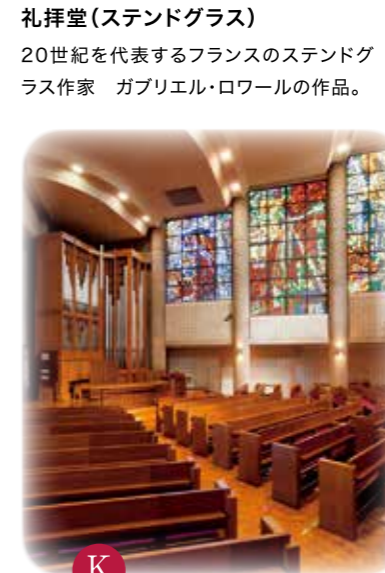
I

ベルタワー
12個のベルが奏でる澄んだ音色が、1日4回、キャンパス内に響き渡る。



J

大学講堂
大学の式典など、学内のさまざまな行事に使われる多目的ホール。



K

礼拝堂(ステンドグラス)
20世紀を代表するフランスのステンドグラス作家 ガブリエル・ロワールの作品。



L

ランディス館
中高の授業のほか、外部セミナー等、さまざまな用途で使用される。



聖書と平和の象徴の鳩
宮城県花の宮城野萩
スクールカラーは臙脂

学校法人 宮城学院

〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1
TEL.022-279-1311(代)

www.mgu.ac.jp/home/